

# Platform

行こうか、**相棒**  
ハンドルの向こうに**仮想の世界**



station

- VRChat : 仮想自動車学校
- cluster : City Driving
- Resonite : 阿讚サーキット
- Real.W : ズムカーナ



# Platform contents

Vol.12

Gravure:kniveakids garage	.....	4	
仮想自動車学校	VRChat	..... 12	
City Driving	cluster	..... 18	
阿讚サーキット	Resonite	..... 24	
ジムカーナ	JMRC栃木茨城ジムカーナ 2024年 第3戦	Real.W	..... 30
あとがき		..... 36	

第12号のテーマは「車／車両」。

VR世界にはなんとなく車好きが多い気がしますが、皆さまいかがですか？  
仮想世界の車には、あのエンジン音もあの匂いもないので味気ないという意見も耳にしますが、その分現実には存在しないめっちゃくちゃな車があったりします。

VR世界ではどんな走りができるのか、胸のエンジンに火をつけるきっかけになればいいなど思います。

編集長

◀ To the next PLATFORM.



世界には、色々な町がある。  
その町ひとつひとつに、駅がある。

どの町も駅もそれぞれ違っていて、  
違った人たちがいて、  
そこを訪れた僕たちが抱く思いも、  
きっと違うのだろう。  
……VRでも、Real Worldでも。

今はまだ離れ離れの「駅」を、「町」を、  
あなたへ繋ぐ線路でありたい。

——それが「Platform」





Life needs GARAGE.



A place just for you  
... and your CAR.



Let's go somewhere sunny,  
somewhere cold.  
After you've repaired him.





Enjoy your time,  
treat CARs well.



knivezkids garage

By knivezkids





VR空間の自動車学校。擬似的に自動車の運転ができる。

# 仮想でも免許を取ろう。



VR CHAT

## 仮想自動車学校

KASO DRIVING SCHOOL

写真/Tokikaze

### 仮想世界の 教習所で

今日はVRChatにある「仮想自動車学校」ってワールドに来ているよ。自動車学校って事はつまり信号機とか交差点とかがあるってことーVRChatで車を運転できるワールドって言えばレース場だったり、ドライブレコーダーが出来そうない雰囲気の世界が有名だね。でもだからこそ逆にこういったフォーマルな感じの世界が面白いよねって！そう思わない？

そうそう、私って自動車免許持っていないの。なんで持っていないの？だっ必要ないもん。たくさん電車とかバスが走っているからね♪だから私ってリアル世界で自動車教習所に行ったことないんだよね！だから初めての自動車教習所が

VRChatがあるこのワールドってこと！

なんだか未来っぽくて良くない？えっ？良くない…。でもほら、メタバースのいいところって実際に行くのが難しいところとか、これからすることを事前に試せるってことだと思えるの。だから実際にやったことが無い自動車教習所に行けるのってメタバースって感じがするでしょ？？？

それでそれで、そもそも自動車教習所って何があるの？というか何をやる場所なの？…とりあえず受付があるのと、後は予約用のPCがあるね！これってよく聞く、その日の講義を予約したり当日予約空気が出来るのを待ったりするっていうやつ？

あつ、ほらほら！こっちに運転免許証の記念撮影できる場所あるよ！私って運転免許証持っていないからVRChatで撮影したこれが初めての運転免許証ってことになるね！現実世界よりも先に仮想世界でゲットしちゃった！そういうえば教習受ける前に作っちゃった！いいのかな…仮想世界だから…いいよね？







## ドキドキ 自動車講習

あとは講習所といえば講義？講習？だよ！何やるのか全然知らないけど！試験内容がすごく意地悪ってことは聞いたことあるー！それになんかいろいろ教室あるんだね。効果測定室？あつ、ここで小テスト的な試験をするの？へえ！最終試験以外にもあるんだね！あとは教室がいくつかあるのとか救護室？保健室ってこと…じゃないんだね。実際に応急処置を学ぶんだ！ちゃんとそういうのも勉強するの知らなかったからちよつとびっ

さてさて、お待ちかねの運転タイムだよ！某有名高級車っぽい見た目だけど、壁にでもぶつけたら大変なことになりそうでちよつと怖いね。VRChatならではのことだけど、運転席に座った後に位置を調整できるよ！現実だと椅子の位置を調節するけどおんなじイメージかな？

ちゃんとバックミラーとかサイドミラーとかあるからすごいよね！それと、意外と運転できる！なんとなく車体の位置はこころへんかなあつて感覚が分かるの不思議な感じだね。運転してみても、運転することが好きって言うって、いる人の気持ちわかるかも！

そろそろ運転したいんだけどその前に運転シミュレーター！まあこのワールドのシミュレーターは建物の外にある自動車を遠隔操作してるんだけどね！仮想世界の中で自動車のシミュレーターを操作するっていう何とも不思議な絵面だね（笑）

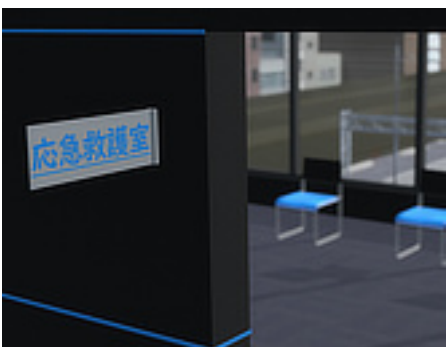
VRChatにはアクセルとブレーキペダルは無いから手に持ってるコントローラでアクセルとブレーキをしてあげないといけないのがちよつと残念だね。でも運転できるってだけでちよつと感動するよね！ちゃんとハンドルを回して曲がったりするのリアルだよ！私リアル知らないけどね（笑）



運転シミュレーター。



効果測定室。

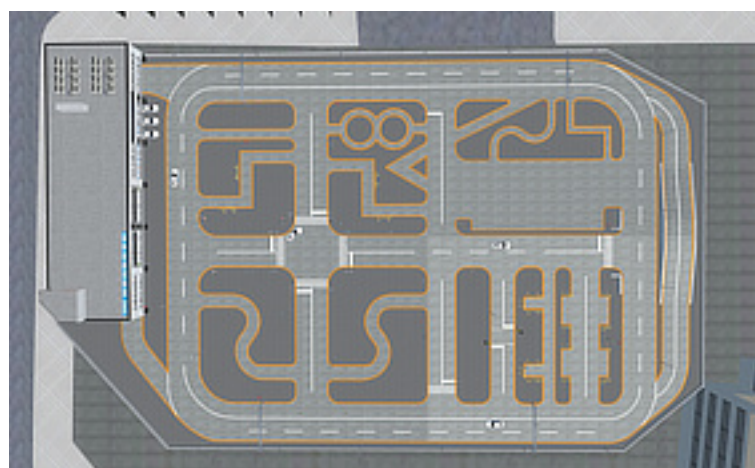


応急救護室。

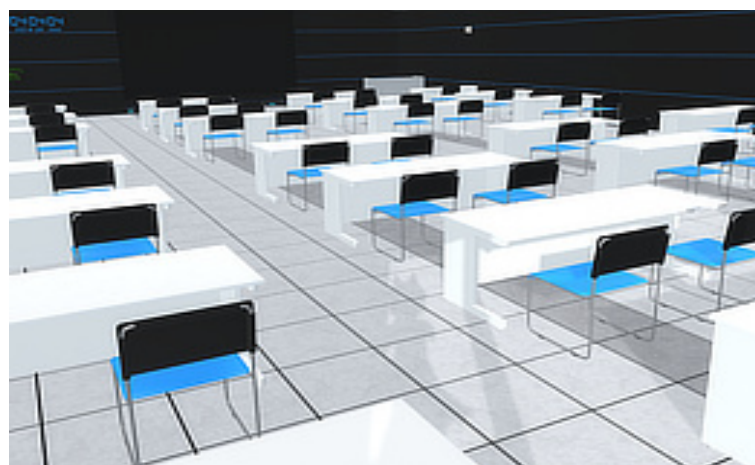


正面写真を撮影する場所。

くりだね！



校内全体コースは形が良く、初めて運転する人にとって走りやすいように設計されている。



仮想自動車学校では初心者運転や違反者の講習など、この教室で行われている。



運転席からの視野が見やすく、安定した走りと乗り心地のある、使い勝手の良いセダン。

講習車は  
安定のセダン

# 自動車講習所って どんなところ？

自動車講習所とは、免許に関する講習や検定を受ける場所である。講習所には運転を学ぶために必要な設備が揃えており、このワールドをVRで紹介できる。





# 待ってました！ 自動車運転



コースは現実の教習所のものとほぼ同じ。VRでも本格的に自動車運転の体験ができる。



停止、駐車、走行。ドライバーが慣れないハンドルさばきで安全運転。気をつけつつ慎重にアクセルを踏む。

数々の試験にクリアした後は、はじめての自動車運転が待っている。このワールドは、リアルな教習所のコースを模しており、擬似的に自動車運転の体験ができる。



このワールドも免許証が作れる。アバターの姿で撮影できる。

## 免許証も 取れる！

## 運転って 楽しいね！

運転するの結構楽しい！それもいわゆるレース場じゃなくて、ちゃんと曲がり角があって、信号があって街の中を交通ルールを守りながら走るの楽しい！それにちゃんと走ろうって思って運転するといろいろなところに気を配らないとダメなんだってわかったのも意外な発見で面白いね！

意図せずメタバースの利点を発見しちゃったかも！！これほんとに自動車教習所行く前にVRChatで車の運転を試してから教習受けた方が短時間で運転うまくなれるんじゃない？

そんな感じでいろいろ回っていたんだけどね、なんと今日の前でフレンドさんがバックでS字カーブしてるんだけど…実際に自動車教習でやるの？って聞いたらやらないよって、どう考えたって難易度高すぎだよ！普通に前進しながらのS字カーブも道の先が見えないし乗り上げ

ないように運転するの難しいのに…：そんなこと言いながらやってみたら意外と何とかなったよ…?!途中少しだけ乗り上げちゃったけど意外と何とかなったよ！でも現実世界で運転することがあっても絶対やらないけどね！事故っちゃうもん！

そんなこんなで今日はVRChatにある「仮想自動車学校」に来てみたよ！実際に教習所に行ったことのない私でも車の運転を体験できるし、何より教習所にあるいろいろな課題を試すことが出来てとても面白い経験が出来て面白かったよ！みんなもぜひ一度遊びに来てみてね！

(文…ことはしろ)



## 仮想自動車学校 KASO DRIVING SCHOOL

by youyou2002

仮想空間で自動車の講習を擬似的に体験できるワールド。

**ACCESS**



youyou2002さんは他にもグッズの「VRChat住民票」も制作している。リアルイベントで見せ合うのも良い。





安全運転で

大暴走!!!




写真/neirow

## 書

き出しは……っと。「メ  
タパスでしかできないこ  
と」が色々模索されている。例え  
ば、時間や場所を越えて面と向か  
って話すかのように会議ができる  
点がビジネスの現場では好まれて  
いるらしいし、実際の性別に因わ  
れないアバターの選択を行うこと  
で「自己」の解放ができることに  
注目する人もいる。もちろん、本  
誌「Platform」もそうした「メタ  
パスでしかできないこと」を模  
索する中で、「メタパス旅行」  
という視点を提示しているわけ  
だ。」

はあ、ここから先が思いつかな  
いなあ……。そういうときは「こ  
れ」に限る。ハンドル確認、アク  
セル確認。ブレーキは確認しな  
い。よし！いくぞ！

オラァ！アクセル全開！！時速  
250km！初期の新幹線「こだ  
ま」と同じ速度だオラァ！突っ込  
め！！！！！！







法はデスクトップとVRで違うかもしれないけど、大抵どうにかなるようにガイドがあるからそれを見てみってくれ。で、まずは操作に慣れるために普通に運転してみよう。VRでは重さを感じないから運転がしづらいねえ。あと、ブレーキがこうやって……あー、やっぱり効きすぎなのか？ちょっと横滑りして回転して

急加速……！……さっき配置した車を右ハンドルで……と避ける！そしてすかさず逆にハンドルを切って体制を立て直す！右！左！左！さっき配置した車たち

で、だ。操作に慣れてきたら、うーん、そうだな。単なる暴走はさっきやったから、今度は映画の主人公になろうか。ちょっと手間だけど、乗りたい車以外の車を少し動かして、障害物っぽく配置してみようか。普通の乗用車、トラック……。トラックは後ろに置いた方がいいな。よしよし、いい感じだ。そしたら、私は今からジョン・ウィックだ。いや、トランスポーターのフランク・マーティンでもいい。シチュエーションはこうだ。今、私は「組織」の追手から逃げている。近くに止めてあった車をパクって逃走するんだ。途中、「組織」の追手が妨害として車をぶつけて来るからそれを交わして逃げ切る。よしよし、脳内で主人公になった私は車に乗り込み……

あー。今回はミスったかあ。上手くいったと思ったんだけど。ま、ジョン・ウィックならここから戦闘開始ってとこだな。

衝突。横転。ゴロンゴロンと体が回る。

……いや「組織」の妨害用の車を次々と避ける！そしてトラックが見えてきた！！後ろの追手をギリギリまで引き付けて……今だ……！！ハンドルを切って、あっ、まにあわな……



どうだい？自分をヒーローに見立てて現実世界では絶対できないめっちゃくちゃなカーアクションができるんだ。これがなかなかストレス解消になってね。あとは普通に全力でトラックに突っ込んでみたりとか、ドリフトしたりとかもしてみたいよ。どうだ

(……と、ここで我に返り、冷静にろうと軽く頭をふる)

ふうーっ。落ち付いた落ち付いた。そしてそこで私を見ている君、変なところをみせたね、失礼した。今回の本誌のテーマは「車/車両」なんだが、私は車にも乗らなければ持ってもいないから、正直あまりいいものを書けそうにないと頭を悩ませているんだよ。いやほら、なぜだかVRChatをはじめとしたメタバース世界では、車を趣味にしている人も多いんじゃないか。そういう人たちはVR内でレースをしたり、車好きが集まってトークしたりしてるだろ？でも私ときたら、車種も分らなければ特に思い入れもないからねえ。この難しいテーマを打破すべく、メタバースで破壊工作にいそしんでいるというわけなんだ。

テーマの「車/車両」とあわせて、私の関心事である「メタバースでしかできないこと」をいい感じに混ぜてエッセイにしたいんだけど、これがなかなか難しい。それでまあ、気分転換というわけで、私が時々やっているストレス発散法がさつき見られてしまったアレ、という

わけなんだ。傍から見れば完全に変人なんだけど、ここで会ったのも他生の縁だ。多少私の話に付き合ってほしい。

このストレス発散法には準備がいるんだ。まずは、車が運転できる場所、例えばちようど今いる「City Driving」みたいな場所に行くんだ。ここだと、色んな車種があるから、パッと見て気に入った車があったらそれに乗ろう。操作方







だが、最近私は気づいてしまった。本当にメタバースでしかできないことは、少なくとも1つあることに。

それは それは！ それは！！

現実世界でやったら確実に死ぬ危険行為を安全にできることだよォー！！！！！！！！

# ガ ミ ン ア ン ！



(文：ニッソ編集長)

い？やってみたくなくなっただろう？ならない？あ、そう……。

しかしまあ、こうやっても中々原稿のアイデアというのは出てこないねえ。「車/車両」かあ……なにを書けばいいやら。

え？私がいまやった暴走の話を書けばいいって？これだけの速度でぶつかって、横転してもケガしないのはVR的だって？おお、言われてみればそうかもしれない！ありがとう！それじゃあこのテーマで書いてみるとしよう。そうだな、書き出しは……と。

「メタバースでしかできないこと」が色々模索されている。例えば、時間や場所を越えて面と向かって話すかのように会議ができる点がビジネスの現場では好まれているらしいし、実際の性別に囚われないアバターの選択を行うことで「自己」の解放ができることに注目する人もいる。もちろん、本誌「Platform」もそうした「メタバースでしかできないこと」を模索する中で、「メタバース旅行」という視点を提示しているわけだ。







徳島県にある「阿讃サーキット」を3Dスキャンし、フォトグラメトリ化。



# 阿讃サーキット

VR PHOTOGRAMMETRY ASAN CIRCUIT



写真／一兎

## サーキットの狭さを 思い知る

実在するサーキット場をフォトグラメトリ化。イベントリの車を持つていけばVR空間でもカーレースを体験することができる。



サーキットで大の字になる。これぞメタバースの醍醐味。なんだったら、複数のレースマシンが火花を散らしているレースの真っ最中であっても、堂々と大の字になれる。

現実でやったらまず逮捕される。そもそも、サーキットのど真ん中で大の大人が大の字になるなんて、恥ずかしくて実行できない。特に私は臆病なものだから、どこからともなく避けられない速度でレースマシンがやって来たらと思うと、怖くて大の字になんかなれない。

とはいえ、舗装された道路を独り占めすると、得も言われぬ解放感で心踊るものだ。昔、とある仕事のために深夜の空港に行っていた時期があった。暗闇の彼方まで続く芝生と滑走路に、少なからず恐怖を覚えたが、それ以上に「広大な土地を独占した」という妙な高揚感に突き動かされた。それこそ、大の字になろうと本気で考えた程だ。







車内の様子。取り出した乗り物のデータはちゃんと走れる。その場でカーレースできるぞ。



乗り物のデータを持っている仲間といれば、一緒にカーレースやドライブを楽しめる。



# 自分の乗り物を持ってば その場でレースだ！

このワールドは乗り物一つ置いていない。でも、レゾナイトは自分の持ち物をどこでも設置することが出来るため、乗り物を持っていればその場で走ることが出来る。まるで夢のようなシステムだ。



さて、今回 Resonite より紹介するワールドは「阿讚サーキット（フォトグラメトリ）」。フォトグラメトリとは簡潔に言えば、色々な角度から写真を撮影して、3DCGモデルを作成する手法である。阿讚サーキットとは徳島県三好郡東みよし町に実在するサーキットだ。KILLI-N-1.5YTA氏（Xアカウント：@klin\_re）がドローン撮影で制作したフォトグラメトリが、インターネット上で無料配布されている。それを知ったとりとり氏（Xアカウント：@toritori\_VRChat）が、Resonite上に無料配布されたデータで当ワールドを制作したという。

メタバースで人気なサーキットや、レースができるワールドでは、搭乗可能な自動車を設置されがちだ。故に著者は、当ワールドに入場した際に困惑した。「あれ、乗れる車がどこにもないのか？」と。

しかし今回は Resonite、自分が所持しているデータを直接ワールドに設置することができる。具体的には、家用車やレーシングカーの他、トラックや戦車さえもこの阿讚サーキットに持って来れるのだ。さながら、某国民的ロボットの猫型ロボットが、ポケットから道具を取り出すかのように。（関係ないが、以前の号でも同じ比喻を使った気がする）

せっかくなので、著者もフリー配布されているレーシングカーでサーキットを走ることにした。だが、いざレーシングカーに乗ってみると、MT中型免許を取得した程度の知識では、操作が全く分からなかった。戸惑いながらも、ハンドルに付いているボタンを片っ端から押すうちに、レーシングカーが凄まじい馬力を出力したので、「あ、これがアクセルのボタンなのか」と納得する始末であった。





車だけではなく、電車や戦車、中にはゾウまで！なんでもありのカオスなレースも楽しめちゃう。



## 特別号 フォト グラメトリ

フォトグラメトリについてこの号で詳しく紹介されてます。

**BOOTH で配布中!**



# 乗る物は何でも 走ればいい

カーレースだけでは物足りないと感じているあなたには様々な乗り物を使って楽しむことが出来る。電車や戦車、シヨッピングカー、ゾウなど、変わった乗り物でのレースをぜひ楽しんでみてはいかが？



しかし、そうして公道では到底不可能な速度でサーキットを走ってみると、どうだろう。「大の字になって、広々とした世界を独占した気分になる」という妙な楽しみ方が、いかに小さな夢であったのかを思い知る。

狭いのだ、サーキットが。ハンドルを大きく切っているはずなのに、コーナーが曲がれない。公道の何倍も幅があるはずなのに、数百キロメートルで走るレーシングカーでは、上手く曲がれないのだ。実際、初めてのコーナーを曲がろうとしたとき、派手にコースアウトしてしまった。

一流のレーサーが運転すれば、朝飯前と言わんばかりにコーナーを曲がれるだろう。私は素人だから、むしろ華麗に運転できる方がおかしい。そうした技量の話は、頭では分かっているつもりであったが……運転席からの風景は、私には想像もつかなかった。

フォトグラメトリの長所の一つは、実際の寸法を3Dデータ(メタバース空間)上に再現しやすい点だと感じる。フォトグラメトリならではの写実性、空間的特

性がなければ、私はサーキットの狭さを感じ知ることはなかっただろう。レーサーにならないと体感できない事を、一部分でも自分事のように体感できるのは、まさにメタバースの利点と言えよう。

最後に余談だが、やろうと思えば阿讃サーキットを戦車やトラックで走るといふ、現実世界ではまずあり得ないことも実現できる。こうしたカオス具合もまた、メタバースの特徴と言えよう。

(文..sun)

## 阿讃サーキット (フォトグラメトリ)







写真/Tokikaze

ラで、何か間違えたのかと疑念がよぎるほど。待ち時間もなく入場し、会場となるマルチコースへ。たどり着いた先はコースとは言いつつ、イメージするサーキット下ではなく、一見少し大きい駐車場でしかない開けた舗装面だ。「ここで本当にレースなのであるの？」と誰もが思う。

実はジムカーナのコースは、こうした場所に「作られる」。コース内に点々と置かれた赤いパイロン、その間こそがレースの走行ルートなのだ。全長わずか600mほどだが、パイロンが描くコースは縦横無尽。アクセル、ブレーキ、右へ左へのタイトな旋回。最高速度は80キロ以下、平均速度は30キロほどしかない。実にテクニカルな競技である。

見れば地図片手にパイロンの合間を歩く人影がちらほら。参加者が複雑なコースを歩いて確認し、走行ラインを考えるコースウォークと呼ばれる時間。ジムカーナの名物だ。それを終えて彼らが戻っていくのは、コースの隣にあるパドック。レースに出場する車を整備、待機するスペースだ。が、そこは見た目も実質

JMRC栃木茨城ジムカーナシリーズ  
2024年 第3戦

レースと聞いて、皆さんはどんなものを想像するだろうか。広大なサーキットのスターティンググリッド。そこに並ぶのは、様々なメーカーのロゴを背負った見慣れぬ形のレーシングカーたち。スタンド席には満員の観客。満場の歓声の中、シグナルが青へと切り替わり、歓声を掻き消す爆音とともに全車が一斉に飛び出す。想起されるのはそんな光景だと思う。レースとは非日常であり、観戦するものであり、巨大な自動車メーカーの争う場であり、普段運転するような車からは縁遠いものである…。

はたしてそうだろうか。

実は、私たちが普段運転するナンバー付きの乗用車がそのまま参加できる、そんな日常の隣にあるようなレースが世には存在する。それも他ならぬ日本に。その名を「ジムカーナ」という。

栃木県茂木町にあるモビリティリゾートもてぎ。二輪の世界最高峰レース MotoGPの日本GPが行われるサーキットでもあり、イベント中は会場を埋め尽くす7万人以上の人が詰めかける。しかし私たちが訪れたその日、施設はガラガ





旗が振られ、ゼッケン1番が飛び出す。エンジンが唸りを上げ、しかし瞬間にコーナー手前で急減速、タイヤを軋ませながらパイロンを回り込んでいく。加速減速、コースを右へ左へ、最後にはパイロンをサイドブレーキターンで1周してゴールイン。その間、わずか1分ほど、息を付く間もなく2番の車が飛び出していく。交錯する、タイムを告げるアナウンスと、次の走行車のエンジン

観客は少ない、いや皆無だ。一応JAF（日本自動車連盟）公認のレースだが、観客というものを想定していない。当然観戦料もない。所在なく待っていると、アナウンスとともに車両が集まってくる。ただし彼らは横並びではなく、一列に並ぶ。そう、ジムカーナは一斉に走る競技ではない。一台ずつ同じコースを走り、タイムを競うタイムアタック競技なのだ。

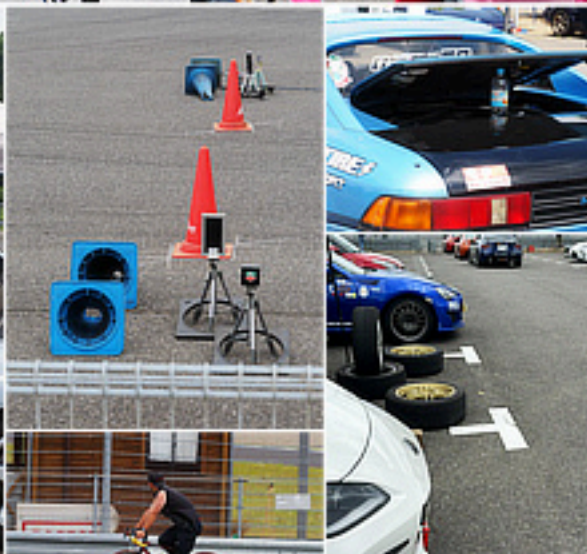
もただの駐車場。所々に積み上がったタイヤを除けば、どこにでもいそうなナンバー付きの車の間、タープやアウトドアチェアを広げ人々がくつろぐ長閑（のどか）な休日の風景がそこにある。

音。歓声も爆音も熱いデッドヒートもないが、白煙を上げるタイヤがパイロンから10センチの距離を駆け抜けていくその姿は、紛れもなくこれがレースだと教えてくれる。しかし走る車はどれも公道車で、中にはコンパクトカーや軽自動車、レンタル車（！）まである。出場者もベテランから初心者まで、親子二代で同じ車で出場の人などもある。それほどに敷居が低いのだ。

軽自動車やコンパクトカーが走ったかと思えばエキジビジョン走行でスーパーセブンが登場。←まさに車の異種格闘技戦。



↑時折ルートミスやスピンする車も。これもレースの見どころ。







ジムカーナは全国各地で年間400戦以上が開催。  
きっとあなたの近場でも！JAF公式サイトから検索してみよう。



**ACCESS**

<https://motorsports.jaf.or.jp/>



今回取材させていただいた大会

：JMRC栃木茨城ジムカーナシリーズ(第3戦)



**ACCESS**

<https://tech1.blogtv.jp/>

会場のモビリティリゾートもてぎにはホンダの博物館も併設。  
数々の名車が並ぶ貴重なコレクションは必見。



**ACCESS**

<http://www.honda-museum.jp/>



敷居が低いのは観戦側も同じだ。広大なサーキットと違い、ジムカーナはコース全てを見渡せる。何台も同じコースを走るしタイムがその場でわかるので、上手い人の走り方や見所も分かりやすい。何よりとんでもなく機敏に走り回り、タイヤから白煙やスキール音を上げ、時には失敗しスピンする車が、実は自分でも運転できるものだという現実。それは非日常的な興奮と同時に、縁遠く思いがちなレースというものが実は自分の手の届く所にあると教えてくれて、観戦をより盛り上げるスパイスとなる。そう、ジムカーナこそは最も日常に近いモータースポーツなのだ。

(文..思惟かね)







Gravure :  
kniveakids garade

撮影：一兔



仮想自動車学校  
-KASO DrivingSchool-

執筆：ことはしろ  
撮影：Tokikaze

City Driving



執筆：ニツリちゃん  
撮影：neirow



阿讃サーキット  
(フォトグラメトリ)

執筆：sun  
撮影：一兔



ジムカーナ

執筆：思惟かね  
撮影：Tokikaze

感想などは  
#Platform通信欄

へぜひお寄せください！

**ニツリちゃん**  
編集長

✕

本誌は電車と駅がモチーフながら、今回は車がテーマです。ひとくちに乗る物といっても色々な切り口があるなと感じたのが今号でした。Vrでは無茶でも現実には安全運転を次の駅は「ホラー」。お手持ちの切符を無くさないように。

**思惟かね**  
編集/デザイン

✕

車には人生の大切な全てのことが詰まっています。運転が上達する喜び、渋滞にはまった時の怒り、ぶつけてしまった時の哀しみ、そして共に旅する楽しみ。私は車が大好きです。

**SUN**  
ライター

✕

最近ではメタバースイベントに出演・主催することも多く、platformを宣伝する機会も増えているのですが、その度に「無料でこのクオリティはすごい！」と言われるので光栄、今後とも精進しなければ……！

**燕谷古雅**  
編集/デザイン

✕

夏は暑いし、最近のVRChatもアツいね～。有名配信者がきっかけではじめて人が増えてきたし、Platformを通じてワールドの良さを広めようかな～。

**わく**  
ライター

✕

普段、徒歩での移動ばかりなのですが、今年の酷暑の中での散歩は厳しさを増すばかりです。旅先ではレンタカーの利用を考えてみようかな？

**ことはしろ**  
ライター

✕

今回から新たにライターを担当します！普段はプラットフォームのメタバースで経験した日常・思いを「ことはしろの手記」として書き残しているよ！これからよろしくね！

**Tokikaze**  
カメラマン

✕

最近、愛車の屋根の内装が剥がれました。VRの車は故障も車検も気にせず走れるのでストレスフリーですね。

**neirow**  
カメラマン

✕

先日は広島風とか言う異教徒を1人粛清しました。良いことをするのは気持ちの良いものですね。

**一兔**  
カメラマン

✕

今回のワールドをめぐっていると愛車に似ている車を見つけてなんだか嬉しかったです！いつか自分のワールドに置きたいなっ

**Nag**  
校正

✕

今号では(いつもの旅情を誘う趣きとは一風異なる)各人の心の動静がこれでもかと迫り出てきます。やはりハンドルを握ると、普段の人格とはまた別の側面が顔を覗かせるかもしれません。

STAFF 編集長 | Editor Chief  
ニツちゃん

誌面デザイン | Design  
思惟かね  
燕谷古雅

校正 | Proofreading  
Nag

執筆 | Writer  
ことはしろ  
ニツちゃん  
sun  
思惟かね

撮影 | Photographer  
一兔  
Tokikaze  
neirow  
わく(裏表紙)

Platform Vol.12 【行こうか、相棒】

発行：Platform編集部 (platformvirtualreal@gmail.com)

初版 (2024/8/3)

To the next JOURNEY.



2024. 8. 3

*Our  
Journey  
Continues...*

*Platform*

Vol. 12



行こうか、  
相棒